

中俣均教授のご退職によせて

山口, 隆子 / YAMAGUCHI, Takako

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理

(巻 / Volume)

55

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

1

(発行年 / Year)

2023-03-20

中俣 均教授のご退職によせて

中俣均先生は、1952年にお生まれになり、新潟県の中部海岸付近にある柏崎でお育ちになられました。かつては、縮の集散地であり、日本の石油産業の中心地（私も小学生のころ、地図帳で新潟県に油田の地図記号があることを確認した記憶があります）でしたが、現在は、東京へ電力を供給して下さる大切な場所となっています。新潟県立柏崎高校時代には、受験勉強のため、毎月送られてくるテキストを読み、問題を解き、通信添削のコメントに一喜一憂されていたそうです（私も高校時代、通信教育を受講し、通信添削のコメントに一喜一憂しておりましたので、このエピソードを知って、中俣先生に親近感が湧きました）。

高校卒業後上京され、東京大学教養学部理科二類（駒場）に入学、進振りの際にはあまり悩まずに、理学部地学科地理学課程（本郷）へ進学されたそうです。1976年3月に学部を卒業、1978年3月に同大学院理学系研究科地理学専門課程修士課程を修了、引き続き同博士課程に進学後、1980年3月に中退されています。

1980年4月から4年間、鳥根大学法文学部地域社会教室に助手として勤務され、地理学と社会学と文化人類学が寄り集まった一つの教室のため、文化人類学の講義なども担当（かなり勉強になったとのこと）されたそうです。1984年4月に、法政大学文学部地理学科に専任講師として着任され、1987年4月に助教授、1993年4月からは教授として奉職されてきました。1990年3月から1991年1月まで、中国北京日本学研究中心で客員助教授を、1997年3月には、博士（理学）の学位を東京大学で取得され、2004年4月から2005年2月まで連合王国シェフィールド大学地理学科に訪問研究員として在職されました。

日本地理学会、人文地理学会、日本島嶼学会、日本民俗学会、日本文化人類学会、奄美郷土研究会、山陰民俗学会等、多数の学会に所属され、2015年9月から2019年10月まで日本島嶼学会第6代会長を務められるとともに、1998年4月から2000年3月、2015年4月から2021年3月の8年間、法政大学沖縄文化研究所所長も務められていました。また、1993年4月から2001年3月まで国土庁国土審議会離島振興対策特別委員会委員、2006年4月から2008年3月まで文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員、2008年8月から2009年3月まで国土交通省海洋管理のための離島における保全・管理・利活用のあり方に関する検討委員会委員長も務められていました。

先生のご専門分野は、文化・社会地理学と奄美・沖縄の地域研究、島嶼研究であり、論文や著書も多数執筆されています。1996年からは新潟県長岡市に居住され、上越新幹線で「出稼ぎ」にいられていらっしゃるようですが、鉄道好きということもあり、苦にならないとのこと。さすがに、積雪期間中は、早朝からガレージ前の雪かきをされなければならないため、少々こたえとのお話を伺った際には、とても真似できないなあと思いました。ご自宅には大量の書籍や資料があるようですが、地理学徒でいらっしゃる奥様も理解なさっておられるのでしょうか。

1971年の上京から早52年（途中、4年間は鳥根ですが）、いよいよ東京生活も店じまいが近づいてきたようです。お嬢様やお孫さんに囲まれた田園生活をゆっくり楽しんでいただければと思います。

中俣先生、お疲れさまでした。いつまでもお元気で。

〔地理学教室・山口 隆子〕